

J.S.Bach Inventionen

バッハ インヴェンション

第8番 ヘ長調 BWV779

- 楽曲分析と演奏法 -

著者：市花 真弓

目次

はじめに、バッハの作品を演奏するにあたって	3
1. バッハ「インヴェンション」第8番 F dur BWV 779 楽譜	4
2. 主動機と対位句について	6
3. バッハ「インヴェンション」第8番 F dur BWV 779 第 I 展開部の楽曲分析と演奏法について	7
4. バッハ「インヴェンション」第8番 F dur BWV 779 第 II 展開部の楽曲分析と演奏法について	9
5. バッハ「インヴェンション」第8番 F dur BWV 779 第 III 展開部の楽曲分析と演奏法について	11
6. 楽譜に 3～5 のアナリーゼの内容を表記しました。 テンポ、強弱も記しました。	12

■はじめに

2003年度からメールマガジンの配信システムを利用しました音楽講座としまして、「バッハ インヴェンションを弾いてみよう！- 楽曲分析と演奏法 -」の発行を始め、2012年にPDF書籍版に移行致しました。思いがけず、多くの皆様にご利用頂き、パソコンの前で頭が下がる思いであります。

この度、全15曲のPDF書籍、それからYou tube講座の全面作り直しをする事と致しました。

ピアノ初心者の方、それから、最近ではコンクール課題において、小学5,6年生がインヴェンションを演奏しているようです。そういった子供達にも理解出来るように制作したいと考えています。

(2019年3月)

■バッハの作品を演奏するにあたって

ヨハン・ゼバスティアン・バッハ (Johann Sebastian Bach 1685-1750) は、ドイツの作曲家でバロック音楽の重要な作曲家の一人です。「音楽の父」と称される音楽家でもあります。

バロック音楽というのは、ヨーロッパにおける17世紀初頭から18世紀半ばまでの音楽の総称です。バロック音楽の作曲家は、ジュリオ・カッチーニ (1545-1618) (イタリア・ルネサンス音楽末期、バロック音楽初期の作曲家となります)、ドメニコ・スカルラッティ (1685-1757)、アントニオ・ルーチョ・ヴィヴァルディ (1678-1741)、ヨハン・ゼバスティアン・バッハ (1685-1750)、ゲオルク・フリードリヒ・ヘンデル (1685-1759) などが上げられます。

今から300年くらい前の時代です。ピアノという楽器はありませんでした。ピアノの原型にあたりますチェンバロ (独: *Cembalo*, 伊: *clavicembalo*) で演奏されていました。このチェンバロは、英語ではハープシコード (*harpsichord*)、フランス語ではクラヴサン (*clavecin*) といいます。

ピアノとチェンバロの違いは、まず、チェンバロにはペダルがない事があげられます。ですので、今日、ピアノでバッハを演奏する場合にも、基本的にはペダルは使用しません。次に音を出す原理が違います。ピアノは、弦をハンマーで叩くことで音が出ます。しかし、チェンバロは、爪状のプレクトラムで弦を掻いて発音します。ですので、チェンバロではピアノのようなダイナミクスな演奏は出来ません。

それから、バッハの音楽は対位法的音楽です。多声音楽で出来ています。多声音楽の事をポリフォニー (*polyphony*) といいます。ポリフォニー (*polyphony*) の対義語としては、ホモフォニー (英語: *homophony*、独語もしくは仏語: *Homophonie*) となります。和声音楽です。

曲集に採用されています15調は、ハ長調ーハ短調ーニ長調ーニ短調ー変ホ長調ーホ長調ーホ短調ーヘ長調ーヘ短調ート長調ート短調ーイ長調ーイ短調ー変ロ長調ーロ短調 と嬰へ短調、嬰ハ短調、変イ長調を除く15調が上行形に整えられています。(シャープ、フラット4つまでの調です。) このように調が整えられている事も、バッハの作品の特徴とも言えます。

Inventio 8

Johann Sebastian Bach
BWV 779

The musical score for Invention 8 by Johann Sebastian Bach, BWV 779, is presented in five systems. Each system consists of two staves: a treble clef staff on top and a bass clef staff on the bottom. The key signature is one flat (B-flat major) and the time signature is 3/4. The score includes various musical notations such as notes, rests, slurs, and fingering numbers (1, 2, 3, 4). The piece concludes with a final cadence in the bass clef staff.

